

を生じたと考えられる。このことから位置観測，特に子午環観測地の選定には地形も重要な要因となる。

結論として，大気差の傾向は三鷹と同じであり，三鷹の子午環観測結果から判断して，地形をえらべばこの地方は大気差の局地異常はなく，位置観測には三鷹と同様に適地である。

ついでにいろいろの経緯度決定法で緯度を決定してみた。老川の緯度値は色々の高度の星を組合せた異星等高度法で， $+35^{\circ}14'38''.90 \pm 0''.15$ (*m.e.*)，高度 35° の北極星から $+35^{\circ}14'38''.58 \pm 0''.25$ (*m.e.*)，高度 60° の星を使う定高度法から $+35^{\circ}14'39''.28 \pm 0''.29$ (*m.e.*) で，どのような高度の星を使っても，決定法が変ってもよく一致する。

観測中湿度の測定を行った。湿度が高いともやが発生し易く，望遠鏡に露がつき観測の障害となり易い。老川は三鷹と水蒸気圧で大差はなく，三鷹と同様に湿度の障害はないようである。

V. 結論

位置天文観測の適地の選定を，最も条件がきびしい子午線観測地選定という見地から調査してみた。

この調査は三鷹の空の都市化が，子午環やPZTの観測にも有害になってきたことにかんがみ，早急に観測地

の選定が必要になったために行なわれた。その結果関東東南部（千葉県南部）が最も適当と思われる。

なお，現在の子午環は1903年に製作されたものですでに66年を経過し，(1)目盛環目盛の磨耗，(2)不安定さ，(3)バランス機構の欠陥，(4)近代化を妨げる構造などの老朽化が致命的で，早急に新子午環の購入や三鷹以外の地に観測地を設定することがのぞましい。

学会だより

本年度の日本天文学会春季年会は，5月21日（水），22日（木），23日（金），24日（土）の4日間の日程で，東京上野の国立科学博物館講堂において開催される予定です。講演申込みは，必ず所定の用紙でアブストラクトを添えて，4月5日（土）までに御提出下さい。また講演申込者の中で，出張旅費の補助を希望される方は各支部理事に御相談下さい。

なお今回より新しい試みとして，予稿集は自筆の原稿をそのまま写真製版して印刷することにしました。したがって申込用紙は必ず本月号の月報に添付したものを御用下さい。申込用紙は1題目1枚になっていますので，余分に必要な方は各支部に請求して下さい。

西村製の反射望遠鏡

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 30cm “A” | カセグレン・ニュートン兼用
10cm 屈折望遠鏡 (f/15) |
| “B” | カセグレン焦点
15cm 屈折望遠鏡 (f/12) |
| 40cm “A” | カセグレン・ニュートン兼用
15cm 屈折望遠鏡 (f/15) |
| “B” | カセグレン焦点
20cm 屈折望遠鏡 (f/12) |

株式会社 西村製作所

京都市左京区吉田二本松町27
電話 (771) 1570, (691) 9589

カタログ実費90円郵券同封



30 cm 反射望遠鏡

ニュートン・カセグレン兼用